

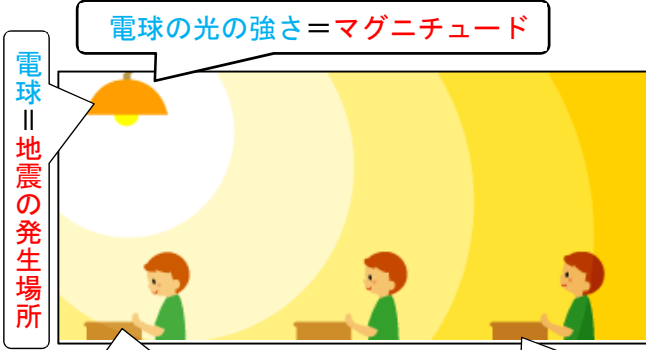
# 「震度」とは? 「マグニチュード」とは?

## 地震がおこると

この時の地震は、マグニチュード7でした。地震のゆれは、発生場所に近い福岡市では震度6弱、久留米市では震度5強、熊本市では震度4でした。地震のゆれは遠くなるほど、小さくなる(電球でいえば、遠くなるほど暗くなる)ことがわかります。

## 震度やマグニチュードをテレビなどでお知らせします

平成17年(2005年)3月20日に福岡県の玄界灘で地震がおき、福岡県を中心に大きな被害がありました。



近くは明るい  
= 近くはゆれが大きい  
遠くは暗い  
= 遠くはゆれが小さい

「震度」というわけでは、電球の光の強さが「マグニチュード」の「机の上の明るさ」に似ています。(上の図) 「震度」と「マグニチュード」の関係は、電球の「光の強さ」と「明るさ」に似ています。

「マグニチュード」は地震そのものの大きさを表すもので、一つの地震に一つしかありません。「震度」は足もとで感じるゆれの大きさを表すもので、場所によってちがいます。

## ゆれの大きさ(震度の階級)をあらわす表です

## 震度の階級表

<b>0</b> [震度0] 人は揺れを感じない。	<b>1</b> [震度1] 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	<b>2</b> [震度2] 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。	<b>3</b> [震度3] 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
<b>4</b> [震度4] ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。	<b>5弱</b> [震度5弱] ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	<b>5強</b> [震度5強] ●物につかまらなると歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。	

震度6弱・6強・7は気象庁のホームページでしらべよう!

上の表は地震による地面のゆれを大きさごとに分けたものです。震度1は、少しの人しか、ゆれを感じませんが、震度3になると、ほとんどの人がゆれを感じます。

- 行動のポイント**
- 地震のときは、あわてないで、すぐに身を守る。
  - ゆれが続いている間は身を守る。
  - ゆれがおさまったら落ち着いて行動する。
  - 緊急地震速報のアラーム音をおぼえておく。  
(テレビと携帯電話では違う音です)



## 「液状化現象」ってなに?

液状化現象とは、地震により地面が強くゆらされることによって、地面が液体のような現象です。水を多く含んだ砂の地面や海岸をうめたてた場所でおこります。液状化現象がおこると、地面の中にあるものがうきあがったり(左の写真は2005年3月に福岡県でおきた地震のあと撮影)、ビルや電柱が傾いたりして大きな被害になることがあります。



2016年	1月7日	木曜日
平成28年		
福岡管区気象台	〒810-0052	
防災調査課	福岡市中央区大濠 1-2-36	
電話	092-725-3614 (記事) 092-725-3600 (天気相談所)	
メール	fk-kanku@met.kishou.go.jp (ご意見・ご要望はこちらまで)	

## 「お天気 Q&A」

Q: 地震による大きいゆれは、どのくらい長く続くのですか?  
A: 地震による大きいゆれが続く時間は、地震そのものの大きさ(マグニチュード)が大きいほど長くなります。  
地震の大きいゆれは、1995年におきた「阪神淡路大震災」マグニチュード7の地震で約15秒に対して、1923年におきた「関東大震災」マグニチュード8の地震で、4倍の約60秒、2011年におきた「東日本大震災」のマグニチュード9の地震では、12倍の約180秒も続きました。

## 気象情報へのアクセス

震度解説表	
震度	検索
アラーム音を聞くには	
地震 訓練	検索